

ハンズオンセミナー

6月25日（日）10：00～11：30

第3会場（鶴岡記念講堂多目的室）

筋電義手

済生会小樽病院 手・肘センター 山中佑香
五嶋 渉

北海道における筋電義手の認知度は低く、2019年に実施した北海道で勤務する作業療法士を対象（1,576名、回収率59.3%）とした調査（平成30年度北海道作業療法士会研究助成）で、「筋電義手は上肢切断者に役立つと思いますか？」という問いに25.4%の作業療法士が「わからない」と回答しました。これまでの筋電義手の学習経験は講義等で実際に見たり触ったりしたことは少なく、多くの作業療法士が「筋電義手は書籍で見た」と回答しており、学習機会が少なかったことを示しています。筋電義手はまさに「百聞は一見に如かず」であり、見ただけでそのイメージが大きく変わります。近年、SNSの普及により様々な動画が閲覧できるようになり、筋電義手も自分で学習できる環境が増加していますが、作業療法士として専門的に学ぶには筋電義手そのものを実際に見て、試行錯誤その場で動かしながら、指の関節は何度まで動くのだろう、どのくらいの握力があるのだろう、重さや動作音、動くスピードはどのくらいだろう、を体感し、興味を持つことが重要です。

今回、北海道で初めてbebionic（ビーバイオニック）ハンドを適応した実際の患者さんをお迎えし、bebionicハンドの特徴、作業療法士として見るべき評価を共有し、フロアのみなさんとその場で筋電義手について体験したいと思います。実際に筋電義手 bebionic ハンドを使用した患者さんの貴重なお話を聞ける機会です。ぜひ、足をお運びいただき、上肢切断の患者さんに作業療法士としてできることを一緒に考えていけたら幸いです。